

2011年3月11日の大震災以来、私の出身地福島県は大変な状況に陥ったままで、未だに復興のきざしがみえていません。

ふるさとの応援になにをしてよいのか分からなかったとき、避難生活を送っている友達から「朝から晩までなにもすることがない、というのは本当につらいことです。」というのを聞き、だったら私達とハイキングしませんか、とお誘いしたのが最初の立ち上がりでした。

1回目は2011年の6月、会津若松の芦ノ

緑のエッセー

牧温泉で避難生活を送っていられた檜葉町の方々に声をかけ、裏磐梯五色沼散策路を歩くことにしました。

ハンドバッグ一つで避難されてきた人達です。普通の姿でも歩ける所という事で選びました。猪苗代にある私のロッジのバスを夫が運転し私はおにぎりやキュウリの一本漬けを作ってお迎えに行きました。震災直後でしたので私も緊張しどんな試みをしたらよいのか分かりませんでし

たが、五色沼の駐車場につき沼が見えた瞬間に「わあーきれい。」「これが五色沼なのね。本当にエメラルド色に。写真は見たけど本物見たのは初めてよ。」と大声で話し始めちよつとびっくりしました。原発のある浜通りの友達には会津地方へ来るチャンスは少なかったのだと思います。「同じ福島県でも来たのは初めてです。」という方も多かったのです。沼の側でスタートを行っていいよ森の中に入って歩き始めたら「わあー緑の中だ、気持ちいいね。」



「木の香りがする。土の臭いだ。あつ自宅の庭に咲いている花と同じ花が咲いている。きれいだねえ。」「まさか避難生活を送っているときにこんな森の中を歩くハイキングするなんて考えてもみなかった。元気ですね。来て良かったよ。本当にありがとう。」「津波でみんな流されなんにもなくなってしまう。でもあれは過去のことだよ。これからのこと考えなくちゃ、とそんな気持ちになった。良かった。」と口々にいつているのを聞き、森歩きが人間を

こんなに元気づけるのかという自然の力に改めて驚かされました。

こんなに喜んでもらえるのならこれは毎月続けて行こうと決心し、山岳環境保護団体である日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストの中に東北応援プロジェクトを立ち上げ毎月一回避難している方達とのハイキングを続けています。2013年の6月で26回目となりました。

福島県に避難されている方達とは福島県の里山

●プロフィール

- 昭和14年 福島県三春町に生まれる。
- 昭和37年 昭和女子大学英米文学科を卒業。
- 昭和44年 「女子だけで海外遠征を」を合言葉に女子登山クラブを設立。
- 昭和50年 エベレスト日本女子登山隊 副隊長兼登山隊長として、世界最高峰エベレスト8848mに女性で世界初の登頂に成功する。
- 平成4年 女性で世界初の7大陸最高峰登頂者となる。
- 現在は年に数回、海外登山に出かけており、これまでに60か国以上の最高峰・最高地点に登頂している。
- 『最近の著書』

- ◎『山の単語帳』(世界文化社)2012年8月
- ◎『タベイさん、頂上だよ』(田部井淳子の山登り半生記) (ヤマケイ文庫、山と溪谷社)2012年2月
- ◎『田部井淳子の 人生は8合目からおもしろい』 (主婦と生活社)2011年5月

を、首都圏に避難されている方とは関東の山を歩いていきます。回を重ねるごとに笑顔が多くなってゆくのを見て森林の持つ魅力と力に感謝している日々です。

今までシニア世代を対象としていましたが、昨年の夏休みから「被災した東北の高校生を日本一の富士山へ」を計画し2012年には60名全員が山頂に経ちました。今年は80名の高校生が参加を希望しています。